

第18回日本木材学会九州支部大会(鹿児島)の実施概要

第18回日本木材学会九州支部大会運営委員会・委員長

鹿児島大学農学部 西野吉彦

第18回日本木材学会九州支部大会は、2011年8月26日(金)～27日(土)に鹿児島大学農学部共通棟101講義室において開催されました。前日まで、曇りがちのすっきりしない天候が続いておりましたが、当日は一転、快晴の夏空のもと支部大会が行われることになり、運営委員一同ほっと胸をなでおろしておりました。一方で、太平洋高気圧がはり出していたこともあって、桜島上空は東風が鹿児島市内に向かって吹いており、折しも桜島の火山爆発も活発でしたので、会場のある鹿児島市にも、久しぶりのまとまった降灰がありました。ご参加いただいた会員の方々にはあいにくの降灰で、会場までの道中、思わぬ災難に遭われたようなことになりお気の毒でしたが、ある意味、夏の鹿児島市内の風物詩を偶然体験いただけて、旅の思い出の一コマになったと思っていただければと願っておりました。

ところで、本年は、九州にとって歴史的な年となりました。それは、2011年3月12日に九州新幹線鹿児島ルートが全線開通となったからです。これで、博多-鹿児島中央間が最短で、1時間19分で結ばれることとなり、一層、九州内の距離が縮まり、利便性が大幅に向上したのです。本来は、その開通式が盛大に執り行われるはずでしたが、開通前日に起こった東日本大震災の影響で、テープカット等の行事は中止となり、静かな幕開けとなりました。しかしながら、九州新幹線の利用客数は順調に推移しており、予想に違わぬ効果を及ぼしているといえます。そして、九州新幹線が開通した本年、日本木材学会九州支部大会が鹿児島で開催されることは、なんともいい巡り合わせであるといえますし、運営委員会としましても、この記念すべき年に支部大会を開催できますことに喜びを感じておりました。

支部大会のスケジュールは、1日目の午後より、研究発表フェーズⅠ(博士論文や修士論文のまとめ等、若手研究者の発表を対象とし、質疑5分を含む25分の発表)が2件、支部の研鑽プログラムを兼ねた公開講演会、九州支部第20回理事・評議員合同会議、懇親会が行われました。2日目は午前より研究発表フェーズⅡ(一般の研究発表とし、質疑3分を含む15分の発表)が5件、午前から午後にかけて昼食をはさんで17件の展示発表が行われ、その後、支部総会、第13回黎明研究者賞表彰式が行われました。

支部大会の参加者の総数は、65名で熱気溢れる質疑応答が繰り広げられました。

公開講演会は、「鹿児島の生物資源と産業」というテーマで行われ、2名の講師の先生方に御講演いただきました。1題目は、鹿児島大学農学部 焼酎・発酵学教育研究センターの高峯 和則 氏による「焼酎の香りを化学する」という講演で、2題目は鹿児島大学農学部の寺岡

行雄 氏による「鹿児島における薪の生産と利用ーかつお節焙乾用薪を中心としてー」という講演でした。高峯先生は、長年、芋焼酎の醸造や蒸留、香り成分の分析等に関する研究を続けられており、その経験に基づいたご講演の内容は、参加者の興味を多いに引きつけるものでした。β-グルコシダーゼやヘミセルラーゼが芋焼酎の香りの成分に関与することなどが紹介され、意外なところで、木材の化学との関連も見られ支部会員の関心は非常に高まっていたという印象でした。寺岡先生は、近年、森林バイオマスエネルギーの利活用に関する調査等を精力的に行っておられ、その一つとして、薪の利用、特に鹿児島では、かつお節焙乾用薪の利用に関して調査されており、それについて御講演いただきました。鹿児島県は、統計上、薪の生産量が日本一で、その主な用途が、鰹節を製造する際に欠かせないシイやカシなどの常緑広葉樹の焙乾用のものであるということでした。薪を製造する業者の形態や薪の製造方法、価格等、知られざる広葉樹材の利用の実態が明らかにされ、参加者は非常に興味深く講演を聴いている様子でした。常緑広葉樹の利用は、鹿児島南薩地方の非常に温暖で、豊富な降水量の恩恵もあって、萌芽更新を主体とした2次林の再生により、持続的なものであることが紹介されていました。2題の講演はいずれも、鹿児島という地域の特性を生かした資源利用の好例であるといえ、学会支部という地域に根ざした活動がのぞまれる立場からも、大いに参考となる講演会であったという印象でした。

支部総会では、平成22年度事業報告、会計報告、平成23年度事業計画、予算などが審議され、了承された後、日本木材学会の一般社団法人化に伴う新たな支部規則および細則に関して審議され、了承されました。総会の終了後、黎明研究者賞の表彰式が行われ、論文賞、口頭発表者賞、展示発表者賞の受賞者の3名が表彰されました。

懇親会は、1日目の18時より、鹿児島大学生協中央食堂において行われ、多くの参加者で盛況となり、多くの種類の芋焼酎も用意され、講演会の成果を実践している方々も、多数いらっしゃいました。この席の最後に、次期支部大会の開催が予定されている宮崎を代表して、宮崎大学教育文化学部の藤元嘉安氏から挨拶がありました。

最後に、日本木材学会の福島和彦副会長におかれましては、遠方より本支部大会にご参加いただき、支部大会運営委員長として、深く御礼申し上げます。九州支部の目黒貞利支部長をはじめ支部事務局のみなさまには大変お世話になりました。また、ご参加いただいた九州支部のみなさまには、支部大会の円滑な運営にご協力いただき感謝申し上げます。

以上